

点火プラグ、LED照明 2本の柱 独自の技術で新しい市場を開拓する

F K K 株式会社

FKK corporation

京都市に本社を構える同社は、今年で創業70周年を迎えます。創業当時から続く点火プラグ事業とLED照明器具事業の2つの事業を軸とした製品の数々は、生活の中のあらゆるシーンで活用されています。

代表取締役社長 川田一力氏と、点火プラグ事業の責任者で専務取締役の川田泰三氏に、創業や主力事業、次世代への思いについて伺ってきました。

創業から事業拡大へ

当社は私の祖父・川田恒男が創業しました。祖父は岡山県総社市の出身で、京都に出てきて家庭を持ち、戦後で仕事がない中で家族を養うために点火プラグ事業の会社で働くようになりました。内職で仕事を引き受けるうちに、のれん分けのような形でいくらかのお客様ごと仕事をいただいたそうです。大学教授に指導を受けながら性能のいい点火プラグを開発し、その技術をもとに1954年「(有)富士工業所」として会社を創業しました。

なかなか量産の仕事が入らず、家内工業の範疇を脱却するのに苦労したそうですが、父の源二郎が入社後、関連団体の名簿を頼りに遠方まで営業に励み、事業の拡大を牽引しました。量産の仕事が入ってくるようになると家内工業では難しくなり、京都市南区吉祥院に工場を建設し、父が2代目の社長として就任しました。そして2007年、現在の「FKK(株)」の社名になりました。

創業から続く事業と海外進出

点火プラグは表には見えない燃焼部品ですが、コンロ、給湯器、ストーブ、厨房機器、ボイラー、船舶などいろいろな製品に使用されています。当社はガス石油機器の民生市場では国内で60%ほどのシェアを持っています。製品のほとんどはお客様ごとのカスタム品です。各社でそれぞれ設計思想や性能・安全に対する考え方が異なるため、プラグの形状もさまざまです。我々はそれに合わせて提案し、ユーザーが希望する製品を提供しています。

近年売り上げを伸ばしているのが、海外向け木質ペレットを燃料にしたストーブ・ボイラー用の点火用部品です。販売先は主にヨーロッパの企業

です。1人のフランス人社員が現地メーカーと折衝を行ったうえで代理店を増やし、現在は30社ほどになりました。高品質な製品を市場に受け入れられる価格で供給できたことで、事業スタートから10年後には約6億円の輸出額を達成しました。



さまざまな形状の点火プラグ

照明事業の立ち上げと新規開拓

照明事業は、1998年に新規事業としてスタートし、私(社長の川田一力氏)は営業担当者として入社しました。その半年後に東京の拠点(自宅兼事務所)でスリムライトパネルという看板製品の販売を請け負ったのが始まりでした。従来の蛍光灯を使用しても薄型・省電力の特徴のある製品でしたが、バブル崩壊後の不景気の中で、安定した売り上げにはなりませんでした。

転機となったのは、ある化粧品メーカーの百貨店デザインの仕事でした。多くの要望を頂いたものの、既製品では希望に細かく対応することが難しく、自社で照明器具の製造を開始することに決めました。この仕事で得た繋がりから、元請けを通さず、化粧品メーカーの宣伝部の方と直接やりとりできるようになり、それが後の強みとなりました。最終ユーザーが本当に欲しい製品を実現でき、現在では百貨



左:川田一力社長 右:川田泰三専務

F K K 株式会社

事業内容：石油・ガス機器部品、および
LED 照明器具の開発・製造・販売

本 社：京都市南区吉祥院堤外町 11 会社ホームページへリンクします

創 業：1954(昭和 29)年

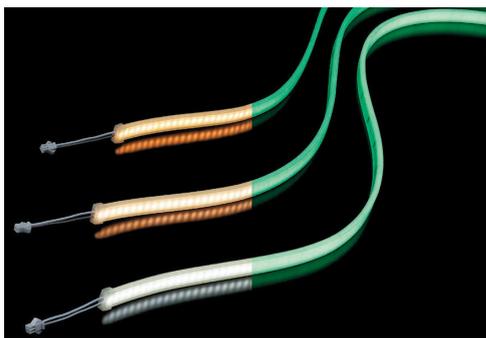
従業員数：134 名



店の化粧品フロアの 6、7 割のブランドの仕事に携わっています。また、内装会社や設計会社と仕事をする中で、どうしたら新しい仕事を任せてもらえるかを考え、一つ一つ商品化していきました。実績を重ね、現在は多くの百貨店など商業施設や公共施設に当社の製品を使用いただいています。

独自技術で人々に寄り添いたい

独自の技術として開発したのが、柔らかい形状のテープライトです。LED 基板とシリコンチューブを一体押出成形できる設備を一から開発し、製造工程の特許を取得しています。その中でも、蓄光テープライトはいくつか賞を受賞し、メディアにも注目していただいた製品です。普段は通常の照明として点灯し、停電時には蓄光していた光を放ちます。



停電時の助けとなる蓄光テープライト

開発のきっかけとなったのは 2018 年の西日本豪雨でした。祖父の出身地も大きな被害を受け、地元の方からは暗闇の中での避難が大変だったという話を聞きました。当時のわが社はインバウンドの追い風もあり、事業は右肩上がりでしたが、災害による停電などのいざという時に役に立たない照明製品を作っていたことに気づき、大きなショック

を受けました。そんな中、他の企業の方に安全な街づくりへの考え方についてうかがいました。そこから停電時に足元を照らせるライトの着想を得て、すぐ開発に乗り出しました。開発社員の対応が早く、着想から約 1 年で完成、特許も取得しました。

ものを売るだけでなく、誰にどう役立つのか、その本質を見つめ直して商品開発に向き合ったことは大きな経験となりました。この後に新型コロナが流行し、商業物件がメインの LED 事業は大きな打撃を受けました。そんな時に助けてくれたのはお客様です。頂いた課題に向き合ううち、私たちの製品は人々に寄り添うためのものだとあらためて感じる事ができました。最近、虫がより感知しやすい光の波長を利用して人と虫の集う空間を分ける照明を大学教授や研究機関と開発中です。住環境だけでなく、異物混入に悩む飲食店や精密工場のお役にも立てると期待しています。

会社のあり方と次世代への思い

LED 事業は社長、点火プラグ事業は専務、と役割を分担してそれぞれ責任を持ち、お互いの領域を大切にしています。従業員に対しては「この会社に勤めてよかった」と満足できる会社、環境をこれからも整えていきたいと考えています。

また、周りの役員たちは私とは異なる視点で自分なりの考えと意見を言ってくれますし、社長であっても賛同を得られないこともあります。こうした風土を次世代に引き継ぎ、培った技術や設備をもとに今後も新規事業を立ち上げていけるように環境を整え、父がそうしてくれたように私も次の経営者にバトンタッチしたいと思います。

一貴重なお話をいただき、ありがとうございました